

令和2年度第3回 岐阜市立女子短期大学運営委員会報告書

1 日 時 令和2年11月10日（火）15時～16時20分

2 場 所 岐阜市立女子短期大学 大会議室

3 出席者

(1) 外部委員（1号委員）出席3名

石黒委員、大坪委員、武藤委員

(2) 学内委員（2号委員）出席4名

杉山学長、道家副学長、服部附属図書館長、久米事務局長

(3) 教 員 出席1名 小野将来構想委員長

4 次第

(1) 岐阜市立女子短期大学のあり方に関する提言について

5 委員の意見

○意見1

新たな教育目標について、女性ひとり一人が、生きたいように生きるということの意味が分かりにくいため、趣旨が、ひとり一人が、ライフプランを立てて、強く進むことができるということであれば、そうした意図が分かるようにすべき。

○意見2

方向性として、ファッションをどうするのか分かりにくい。新たな提言となる岐阜学において、ファッションが扱われるのであれば、応援をしていきたい。

○意見3

今ある学科の教育内容を、地域や社会ニーズに合わせて変えていくことも重要である。市の看護専門学校との連携から新しいものが生まれてくることを期待する。

○意見4

岐阜の地域を題材として、どの地域であっても活躍できる普遍的なスキルや考え方を学ぶことを趣旨とする岐阜学コースは、意義あるものと思うが、短期大学の2年間を経て3年目をこの課程で勉強をするということであれば、メリットを示す必要あると考える。

○意見5

短期大学は、人生の経験の中で、重要な役割がある。人生の計画を考える良い機会であり、経済的なこともあるが、まずは2年間勉強して、就職を選ぶこともでき、進学して、さらに勉強する道を選択できるよい仕組みである。

○意見6

長期的なイメージにおいて、人文系4年制大学がビジョンで示されているが、これからの時代には、文系、理系の垣根がない文理融合が必要と思われる。